

令和4年度シラバス（地理歴史）

学番 中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史(日本史特論)	単位数	4単位	学年	6学年(国際文化コース)
使用準教科書	詳説日本史(山川出版社) 高等学校新倫理最新版(清水書院)				
副教材等	新詳日本史(浜島書店) 詳録新日本史史料集成(第一学習社)				

1 学習目標

日本史の展開を、わが国を取り巻く国際関係等と関連づけて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を育成する。

2 指導の重点

1. 文字史料・絵画資料等を積極的に活用し、既習の日本史Bの内容をより深く追究する態度を育成する。
2. 前半は史料の解釈や読み取りなどにより事象を深くとらえる考察をとおして、史料問題や記述・論述問題等に対応できる学力の養成を目指す。
3. 後半は、倫理分野でも学習する日本思想の歴史的背景を学ぶことで、科目の枠にとらわれずに様々な問題を考察する態度を育成する。

3 学習計画

月	学習内容	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	対外交渉史①ー文字資料から見る古代の日本ー	<ul style="list-style-type: none"> ・『魏志』倭人伝全編をメインテキストに、その他の中国史書・国内外の金石文等の文字資料も用いて、国家統一過程の日本の姿と東アジア世界との関係を考察する。 ・『善隣国宝記』等を用いて、室町幕府の外交を考察する。また、倭寇図巻をもとに、倭寇についても考察する。 	12	定期テスト 課題
5	対外交渉史②ー資料からみる中世の日明関係ー			
6	対外交渉史③ー宣教使がみた戦国期～江戸初期の日本ー	<ul style="list-style-type: none"> ・『耶蘇会士日本通信』、ルイス・フロイスの『日本史』などをメインテキストに、キリスト教受容史、ヨーロッパ人が見た戦国期～江戸初期の日本の姿を考察する。 ・『ペルリ提督日本遠征記』・『北槎聞略』等を用いて、開国前後の日米関係・日露関係を考察する。 ・『特命全権大使米欧回覧実記』等を用いて、明治期の対外関係、欧米文化の受容のあり方を考察する。 	24	定期テスト 課題
	対外交渉史④ー資料からみる近世後期の外交ー			
	対外交渉史⑤ー大久保利通がみた欧米ー			
7	政治史①ー絵画資料からみる	<ul style="list-style-type: none"> ・『伴大納言絵巻』『平治物語絵巻』などの絵画資料を用いながら、平安初期から院政期までの主要事件を考察する。 ・『蒙古襲来絵巻』等を用いて、鎌倉期の政治史を考察する。 ・『伊藤博文伝』、政治経済の資料集を用いながら、明治憲法の成立過程と日本国憲法との違い、諸法典の内容などを考察する。 	34	定期テスト 課題
8	摂関政治～院政期ー			
9	政治史②ー絵画資料からみる鎌倉時代ー 政治史③ー明治憲法体制の成立ー			
10	民衆史ー説話集と絵画資料からみる古代・中世の民衆ー	<ul style="list-style-type: none"> ・『今昔物語集』『一遍上人絵伝』をメインテキストに古代・中世の経済、民衆の姿を考察する。 ・『梅花無尽蔵(万里集九)』『永禄六年北国下り遣足帳』『東北遊日記(吉田松陰)』『西遊草(清川八郎)』『日本奥地紀行(バード)』等の新潟県を旅した人々の記録を用いながら、古代～明治期までの交通史を考察する。 ・古代～近世までの絵地図、陸軍陸地測量部の地図を用いながら、近年までの燕市周辺の交通のあり方を考察する。 	34	定期テスト 課題
	交通史①ー越後を旅した人々ー 交通史②ー昔の燕の景観を考えるー			

11	思想史①－仏教の受容－ 思想史②－儒学の発展－ 思想史③－蘭学・民衆思想－ 思想史④－明治の思想－	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理で学んだ日本仏教思想の特質とその変遷を、各時代の政治・社会情勢を踏まえて考察する。 ・倫理で学んだ主要な近世儒学者の思想を、その背景となった政治・社会情勢を踏まえて考察する。 ・倫理で学んだ蘭学などの思想を、幕府の政策を踏まえて考察する。 ・啓蒙思想から国粋主義への転換を、東アジア情勢の変化を背景に考察する。 		
12	特編	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた日本史の知識を活用し、総合的な演習を行う。 ・自分の考えをまとめて発表し合ったり、記録（レポート）として残す作業を行う。 	36	定期テスト 課題

計 1 4 0 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

1. 課題の提出や小テストの実施で知識の定着を確認します。
2. 週末や長期休業中にレポート等を提出してもらいます。

5 評価規準と評価方法

評価はつぎの 4 観点から行います。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
日本史に対して興味・関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	日本史の知識をふまえ、現代世界の課題を歴史的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。 歴史的視点から世界の多様性を学び、異文化に対する理解を深めている。	日本史の基本的事項に関する諸資料をさまざまな方法で収集し、主体的に選択・活用し、歴史的事象を追究する方法を身につけている。	日本史を理解するために必要な基本的な知識を身につけている。 日本を取り巻く国際環境と関連付けて日本史の大きな枠組みと流れを把握している。

以上の観点を踏まえ、定期考査を基本とし、課題提出、小テストなどで総合的に評価します。

6 担当者からの一言

1. 5年次に学習した日本史の知識を、諸資料を活用することでさらに深く理解するとともに、倫理、政治・経済の知識と関連づけながら、記述問題・小論文問題等に対応できる学力を養います。
2. 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、教師の解説をよく聞いてメモを取り、自分なりのノート作りを行います。

(担当：佐藤 優之)